

## 平成 26 年度郡山市の環境施策等に対するその他の意見

「郡山市環境審議会」へ毎年度施策の実施状況を報告し、必要な意見や提言を「郡山市の環境施策等に対する意見」として受け、「平成 27 年度版郡山市の環境」の冊子中に掲載していますが、委員のその他の意見については次のとおりです。

### 省エネルギーの推進について

- ・環境家計簿について、子どもや普段家計簿をつけている主婦等が参加しやすいようなインセンティブを与えることも、参加者数を伸ばす一つの手法になるのではないか。
- ・環境家計簿の参加者数が増えるように、内容を簡素化するなどの見直しも必要なのではないか。
- ・環境家計簿参加者にインセンティブを与えることも良い方法であると思うが、その他にも自分の家庭からの CO<sub>2</sub> 排出量の順位をウェブ上で閲覧できるようなシステムがあれば、環境家計簿への参加の動機付けにもなり、CO<sub>2</sub> 排出量削減にもつながるのではないかと思うので、このような方法も検討してはどうか。
- ・環境家計簿の応募用紙となっている「STOP！地球温暖化」リーフレットは、各行政センター等にも配置していると思われるが、市民が気付きにくいことや、気付いたとしても、興味が湧かないということも参加者数が伸びない要因の一つなのではないか。市民が気付きやすい配置方法や、興味を持ってもらうような工夫も必要なのではないか。

### 公用車への次世代自動車の導入について

- ・電気自動車やハイブリッド自動車の購入となると、財政措置に苦勞すると思われるので、最近では、ハイブリッド自動車以外にも自動車の低燃費化が図られていることから、低燃費自動車も公用車のハイブリッド自動車等導入率の算定に含めてみても良いのではないか。CO<sub>2</sub> 排出量の削減に寄与するという目的に変わりはないと思う。
- ・電気自動車やハイブリッド自動車等の低燃費自動車に限らず、古い自動車を新車に買い替えただけでも十分に公害対策になっている。公用車の買い替えにより、実質的にどの程度 CO<sub>2</sub> 削減につながったかを精査してみてもどうか。
- ・公用車は耐用年数を把握し、買い替えを進めていけば環境指標として掲げている公用車のハイブリッド自動車等導入率は向上していくのではないか。

## 「郡山市第二次環境基本計画」の進行管理、点検・評価について

・環境指標の評価は「◎：現時点で目標値を達成している」、「○：目標値までの計画推移どおり進んでいる」、「△：目標値までの計画推移より遅れている。」の3段階となっているが、評価内容には大きな幅があり、「△」の中でも「×」と付けるべきところがあるように思う。評価方法として「×」を付けるべきところは「×」とした方が、次期計画の策定に向けて、現況を把握しやすいというメリットも考えられる。

・環境指標の目標値は、太陽光発電システム設置累計のように分かりやすいものと、環境家計簿参加者数のような数値として成果が表れにくい市民への意識づけ的なものとに分けられ、特に意識づけ的な目標については、必ず目標達成しなければならないというような性質のものとは異なるのではないかと思う。意識づけ的な指標については、目標達成とならない要因について整理した方が良いと思う。

・環境指標である「多自然工法による河川等の整備延長」について、準用河川の整備延長のみを目標値としているようだが、次期計画における環境指標の設定にあたっては、準用河川と普通河川の両方を指標とする等の検討が必要と考える。